

医道審議会医師分科会医師臨床研修部会

臨床研修制度に関するヒアリング

－平成25年6月27日－

青 森 県

良医育成支援特別顧問

健康福祉部次長

小川 克弘

藤本 幸男

1. 青森県における臨床研修の状況

(1) 地域医療確保に当たっての基本的考え方

- 地域全体で医師及び医師を目指す若い人たちをきちんと支え、育成する。



「良医」を育むグランドデザインを策定(平成17年度)

＜基本戦略＞

- ① 学ぶ環境を整える
- ② 意欲を持って働く環境を整える
- ③ 仕組みを整える

(2) 臨床研修の取組み

- 青森県医師臨床研修対策協議会の設置・運営
 - 同協議会による合同での事業展開
- ① 臨床研修病院合同説明会
 - ② 臨床研修医セミナー
 - ③ 臨床研修医ワークショップ
 - ④ 臨床研修指導医ワークショップ

① 合同説明会



② 研修医セミナー



③ 研修医ワークショップ



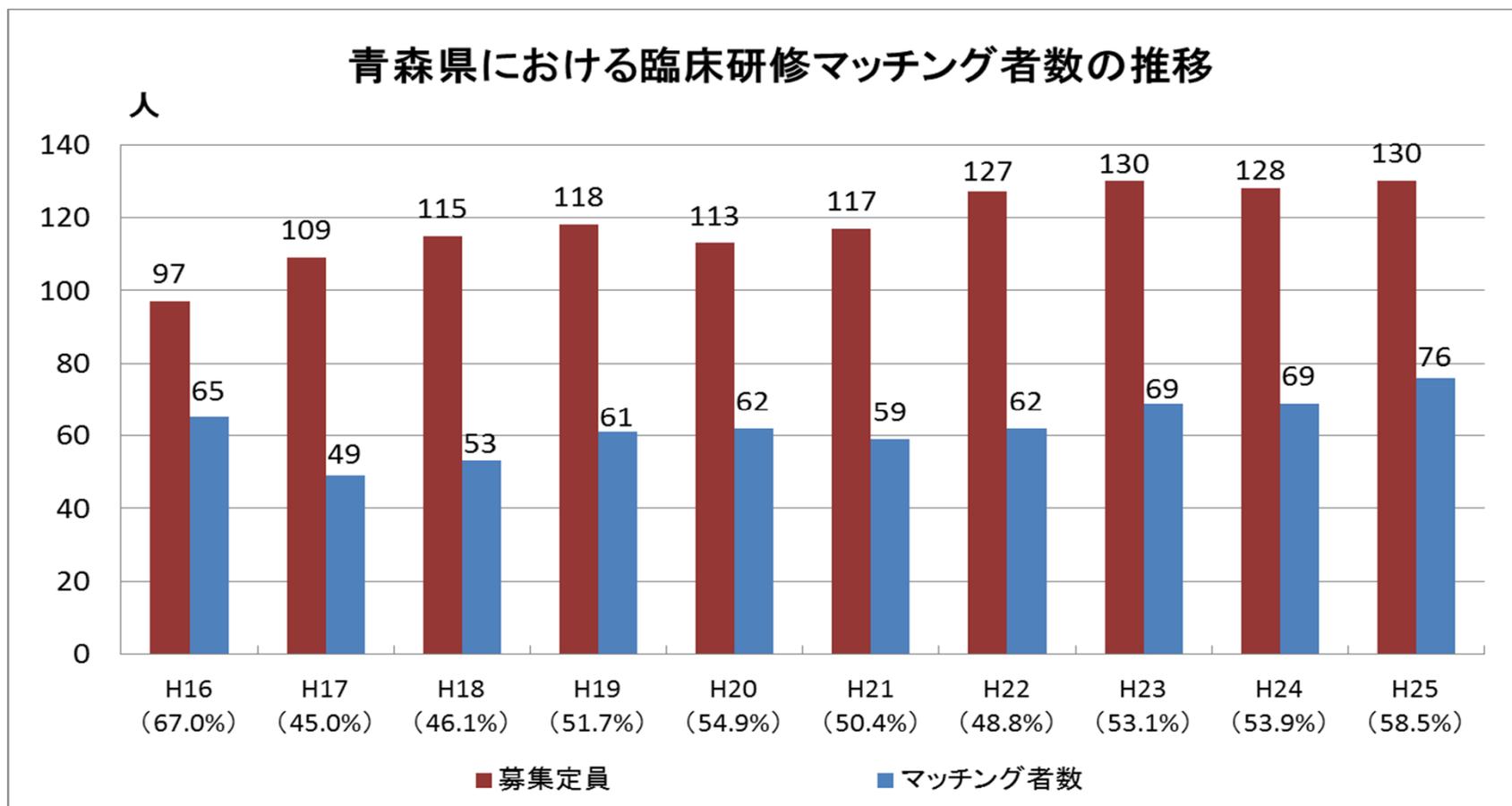
④ 指導医ワークショップ



(3) 臨床研修の状況

➤ ① 臨床研修マッチング者数の推移

- ・ 堅調に増加傾向で推移
- ・ 募集定員の6割弱

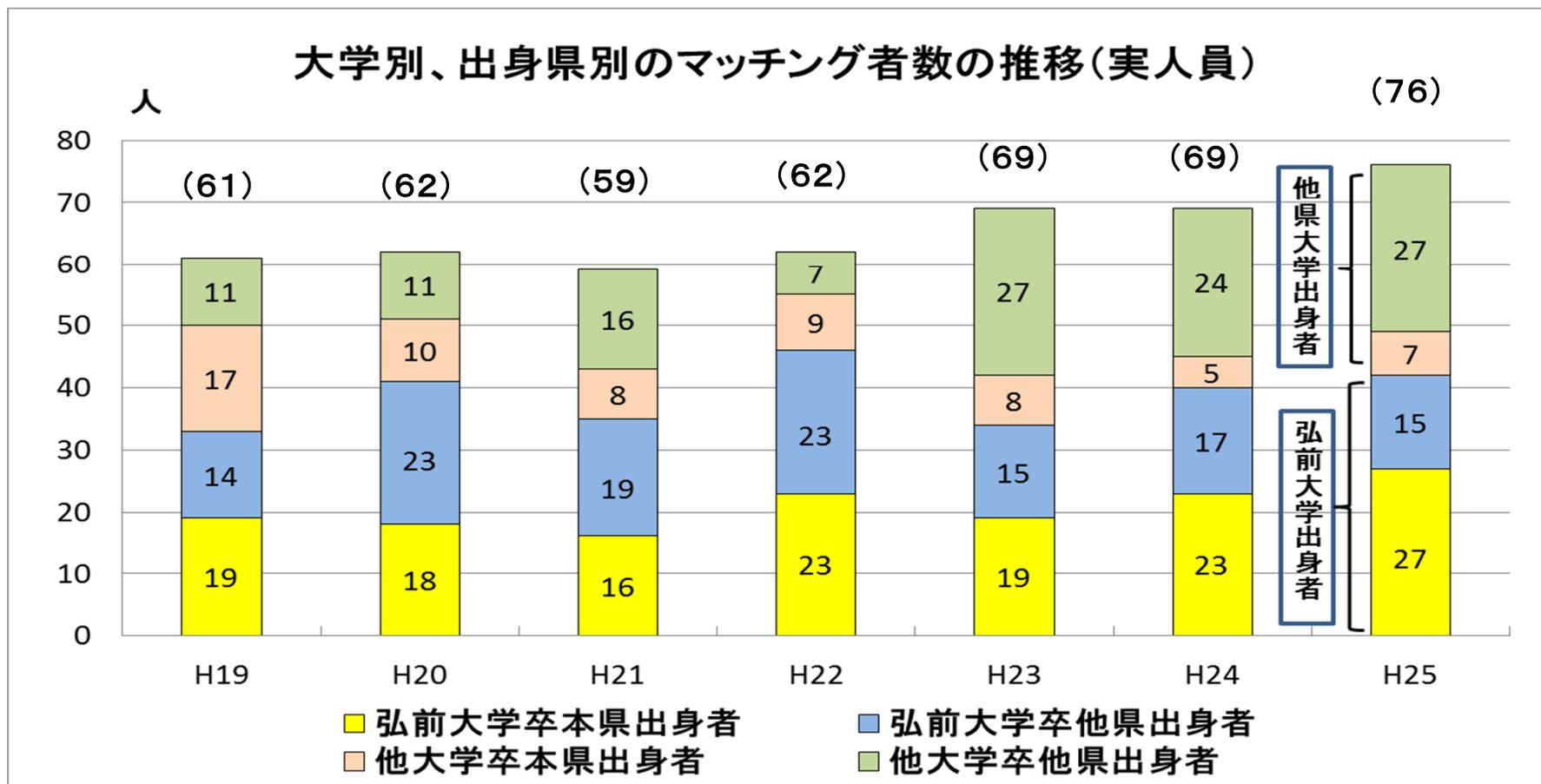


※自治医大医学生は除く。

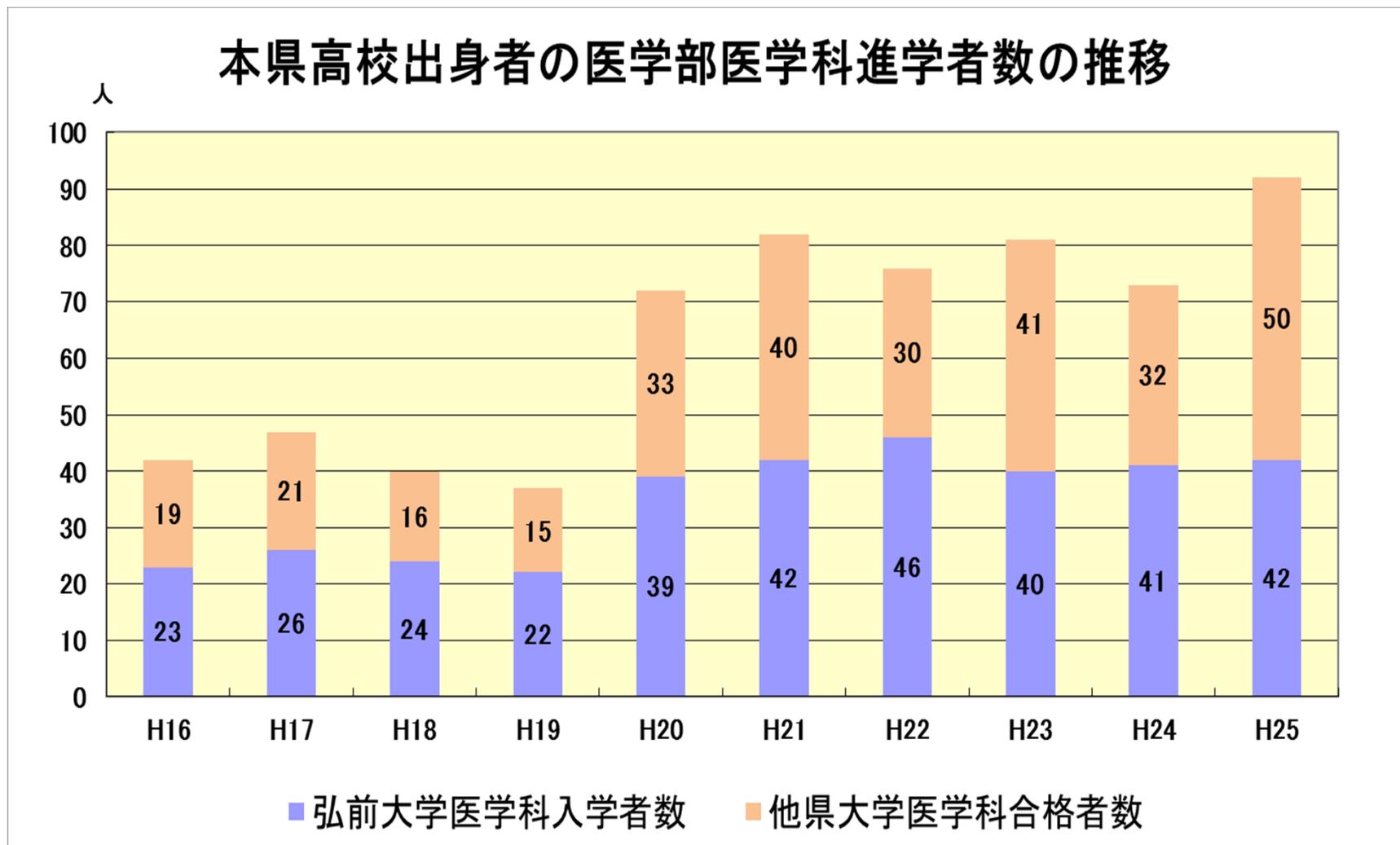
(3) 臨床研修の状況

➤ ② 大学別、出身県別のマッチング者数の推移

- 弘前大学卒のうち本県出身者の8割以上が本県臨床研修を選択
- 他県大学卒のうち本県出身者の約4割が本県に回帰し臨床研修を選択
- 本県出身の医学科進学者数が大幅に増加し、今後、臨床研修でマッチング数の増加見込み

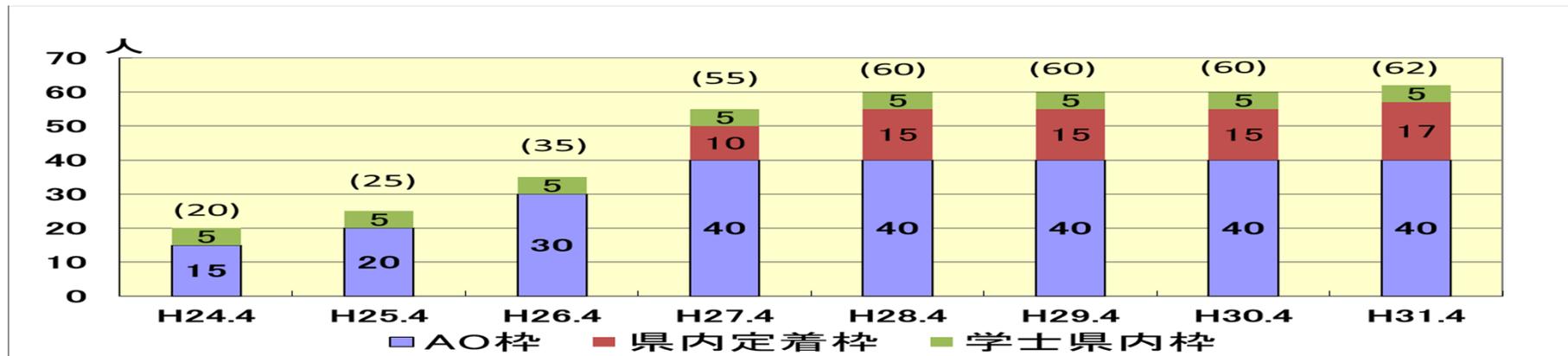


(参考)



(3) 臨床研修の状況

➤ ③弘前大学医学部医学科地域枠卒の臨床研修1年目



【弘前大学医学部医学科地域枠の臨床研修先指定条件】

- | | | |
|-------|--------------|--|
| 県内定着枠 | H24.4～H30.4) | 卒業後は弘前大学医学部または関連施設で勤務することを確約できる者(臨床研修先の指定なし) |
| A O 枠 | H31.4) | 卒業後直ちに弘前大学医学部附属病院の臨床研修プログラムにしたがって臨床研修を行い、引き続き附属病院または医学研究科関連施設で医療に従事することを確約できる者 |
| 学士県内枠 | H24.4～H29.4) | 卒業後は弘前大学医学部附属病院の臨床研修プログラムにしたがって臨床研修を行い、その後青森県内で医療に従事することを確約できる者 |
| // | H30.4～) | 卒業後直ちに弘前大学医学部附属病院又医学研究科関連施設のプログラムにしたがって臨床研修を行うことを確約すること。 |

【青森県医師修学資金】

- 県の修学資金は30人を対象としており、被貸与者のほとんどが地域枠と重複している。
- 貸付条件として、臨床研修先は指定していない。

(3) 臨床研修の状況

- ④ 今後、マッチング者数が増加傾向となり、現行の募集定員を充足していく見込みである。

H21 入学生(188人)

県外大学・他県出身は直近過去3年間の平均マッチ数で固定

県外大学・青森県出身	40人
弘前大学・地域枠以外	70人
弘前大学・地域枠	55人

× 0.4 (直近過去3年間の平均)

× 0.2 (直近過去3年間の平均)

地域枠55人が全員県内に残ってくれると仮定

H27 県内マッチ数(111人)

県外大学・他県出身	26人
県外大学・青森県出身	16人
弘前大学・地域枠以外	14人
弘前大学・地域枠	55人

H23 入学生(190人)

県外大学・他県出身は直近過去3年間の平均マッチ数で固定

県外大学・青森県出身	41人
弘前大学・地域枠以外	66人
弘前大学・地域枠	60人

× 0.4 (直近過去3年間の平均)

× 0.2 (直近過去3年間の平均)

地域枠60人が全員県内に残ってくれると仮定

H29 県内マッチ数(115人)

県外大学・他県出身	26人
県外大学・青森県出身	16人
弘前大学・地域枠以外	13人
弘前大学・地域枠	60人

H25 入学生(198人)

県外大学・他県出身は直近過去3年間の平均マッチ数で固定

県外大学・青森県出身	50人
弘前大学・地域枠以外	63人
弘前大学・地域枠	62人

× 0.4 (直近過去3年間の平均)

× 0.2 (直近過去3年間の平均)

地域枠62人が全員県内に残ってくれると仮定

H31 県内マッチ数(121人)

県外大学・他県出身	26人
県外大学・青森県出身	20人
弘前大学・地域枠以外	13人
弘前大学・地域枠	62人

2. 課題

(1) 募集定員の確保

- 今後、臨床研修医の増が見込まれている。



医師不足地域に配慮した募集定員の確保

(2) 地域枠のマッチングにおける配慮

- 大規模な地域枠による臨床研修医の増が見込まれる。



地域で確実に受け入れることのできる仕組み

2. 意見

(1) 募集定員について

地域枠の5年次在学者数や医学部入学定員に占める地域枠の割合を募集定員上限の算出要素に加えるなど、地域の従事義務がある地域枠からの卒業生が、当該地域で確実に研修を行うことに配慮した制度設計とした上で、全国の募集定員がマッチング申込者数(医学部医学科卒業生実数)に近づくようなシステム構築に努めていただきたい。

(2) 地域枠のマッチングについて

➤ アンマッチ対策をした上でのマッチング枠内で良いと考える。

● その場合、アンマッチ対策として

- ✓ 個別に本人・病院と相談し、互いに内定・上位登録などを調整する必要がある。
- ✓ 地域枠医学生の上位登録により、県内の特定の臨床研修病院から地域枠以外の医学生が押し出されてアンマッチとならないような対策が必要と考える。

➤ 県は、臨床研修病院の更なる魅力向上などに努めていく。国においても、引き続き支援が必要と考える。

➤ 地域枠からの卒業生の大幅な増加を見極めることが必要であることから、2年～3年後に臨床研修制度の中間見直しが必要と考える。